

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅱ-1-7 災害に強い県土づくり

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 河川課長 田中 悟 電話番号 0852-22-5195

事務事業の名称	中小河川の改修事業	
目的	(1) 対象	流域住民
	(2) 意図	洪水被害を軽減させ、流域住民の安全で安心な暮らしを確保する
事業概要	治水対策のため、広域河川改修事業、総合流域防災事業、安全な暮らしを守る県単河川緊急整備事業等により河川整備を実施する。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			指標名	洪水から保全される人口	目標値		296,700	301,500	306,400
式・定義	汎濫想定区域内人口×河川整備率	実績値	212,100	216,675	304,700	307,300			
		達成率		73.00	101.10	100.30			%
指標名		式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	4,019,976	5,315,855
うち一般財源(千円)	118,648	175,379

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- ・斐伊川放水路事業（直轄）に関連する出雲市街地の新内藤川に事業費を重点投資しており、H23年度から10年間で暫定改修を完成するよう取り組んでいる。
- ・近年被災した河川、特に市街地河川において早期に事業効果が発揮できるよう重点的に取り組んでいる。
- ・未だ河川改修の整備率は低く、治水対策を着実に推進する必要がある。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・河川改修を着実に進めたことにより、保全人口が増加した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・河川改修の整備率（50mm/h対応）はH26年度末時点で30.7%と未だに低く、改修が必要な河川が多く残っている。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・改修が必要な河川の整備が多く残っている状況の中で、国の交付金枠も限定され、県単改修費も少ないため。

③原因を解消するための「課題」

- ・国の交付金枠の拡大
- ・県単改修費の増額

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・河川予算を確保するうえで、国からの交付金を増やすよう要望する。
- ・保全人口を増やすため、暫定改修や重点投資など、効率的・効果的な事業執行に努める。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）